

**製品名: ALDOB ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86674**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:20-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:40 kDa; Observed MW:40 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ALDOB
別名	ALDB; ALDO2
遺伝子 ID	229
SwissProt ID	P05062
免疫原	ヒト ALDOB の合成ペプチド

**背景**

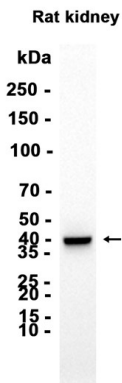
フルクトース-1,6-ビスリン酸アルドラーゼ（EC 4.1.2.13）は、フルクトース-1,6-ビスリン酸からグリセルアルデヒド 3-リン酸および

ジヒドロキシアセトンリン酸への可逆的な変換を触媒する四量体解糖酵素です。脊椎動物には、電気泳動特性と触媒特性によって区別される3つのアルドラーゼアイソザイムが存在します。これらの違いは、アルドラーゼ A、B、C がそれぞれ異なるタンパク質であり、関連する「ハウスキーピング」遺伝子ファミリーの産物であり、異なるアイソザイムの発現が発達的に制御されていることを示しています。発生中の胚はアルドラーゼ A を産生し、成体の筋肉ではアルドラーゼ A の産生量が増加し、細胞タンパク質全体の 5% にも達することがあります。成体の肝臓、腎臓、腸では、アルドラーゼ A の発現が抑制され、アルドラーゼ B が産生されます。脳やその他の神経組織では、アルドラーゼ A と C がほぼ同量に発現しています。アルドラーゼ A と C の間には高い相同性があります。ALDOB の欠陥は遺伝性フルクトース不耐症を引き起こします。[RefSeq 提供、2008 年 12 月]

## 研究分野

-

## 画像データ



ALDOB ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してラットの腎臓組織抽出物をウェスタンブロット分析しました。